



## Yuma KISHI / 岸 裕真 (JP)

Born in 1993, Tochigi, Japan  
Lives and works in Tokyo, Japan

### #Education

東京藝術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 修了  
東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 修了  
慶應義塾大学 理工学部 電気電子工学科 卒業

人間と非人間の交差から立ち上がる未知の存在を探究するために、AIを「Alien Intelligence (異種の知性)」と捉え直した共創的な制作を行う。2019年より独自のAIの開発と学習データの設計を起点に制作を開始。自ら開発したAIモデル「MaryGPT」をはじめとする協働のもと、絵画、彫刻、インスタレーションを制作する。

代表作にAI制御エクソスケルトン・インスタレーション《xoxo-skeleton》(2026 / ENCOUNTERS, TODA BUILDING)、個展「Oracle Womb」(2025 / √K Contemporary)、「The Frankenstein Papers」(2023 / DIESEL ART GALLERY) など。2026年秋以降は、Gazelli Art House (London) の Jasia Reichardt キュレーション展「AI Then & Now」(ICA 1968『Cybernetic Serendipity』継承)への出展、Art Explora x Cité internationale des arts (Paris) のレジデンス (5,387件中12採択) が控える。

ファッションブランド HATRA とのリサーチベースの作品発表、RADWIMPS、King Gnu などへのアートワーク提供、渋谷慶一郎「アンドロイド・オペラ」の映像演出など、領域を横断した協働でも活動を展開する。

文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業 2025 採択、CCBT アーティスト・フェロー 2025 選出、Art Explora x Cité internationale des arts 2026 採択。主な著書に『未知との創造: 人類とAIのエイリアンの出会いについて』(誠文堂新光社, 2025)。1993年 栃木県生まれ。東京を拠点に活動。√K Contemporary (東京) 所属。

### #Solo Exhibitions

2025 Oracle Womb, √K Contemporary (Tokyo, JP)  
2023 The Frankenstein Papers, DIESEL ART GALLERY (Tokyo, JP)  
2022 Moon?, HARUKAITO by island (Tokyo, JP)  
2021 Imaginary Bones, √K Contemporary (Tokyo, JP)  
2021 Neighbors' Room, BLOCK HOUSE (Tokyo, JP)

### #Upcoming

2026–2027 AI Then & Now, Gazelli Art House (London, UK), curated by Jasia Reichardt  
2026 Art Explora x Cité internationale des arts Residency (Paris, FR)

### #Selected Group Exhibitions

2024 DXP2, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa (JP)  
2024 JYU (BEAUTIFUL DAYDREAM), Maruka (Tokyo, JP)  
2022 Made in Japan 3.0: Defining a New Phy-gital Reality, K11 Art Mall (Hong Kong, HK)  
2021 How to see paintings reprise, √K Contemporary (Tokyo, JP)  
2020 Allelopathy in the Wasteland, MITSUKOSHI CONTEMPORARY GALLERY (Tokyo, JP)

### #Art Fairs

2025 Art Taipei 2025, (Taipei, TW)  
2024 Kiaf Seoul 2024, coex (Seoul, KR)  
2024 Art OSAKA, Osaka City Central Public Hall (Osaka, JP)  
2022 TAIPEI DANGDAI 2022, Taipei Nangang Exhibition Center (Taipei, TW)  
2022 ART FAIR TOKYO 2022, Tokyo International Forum (Tokyo, JP)

### #Awards and Grants

2026 Art Explora x Cité internationale des arts Residency (12/5,387 selected)  
2025 CCBT Artist Fellow (Tokyo, JP)  
2025 Agency for Cultural Affairs, Media Arts Creator Development Program  
2023 CAF Award 2023 Finalist  
2022 ATAMI ART GRANT 2022  
2021 muni art award 2021 Atsushi SUWA Prize

**"xoxo-skeleton" project curation: MaryGPT**

AI が人間の身体を直接動かす儀礼的外骨格。装着者は研磨された金属製の肋骨型構造体の内部に入り、天井から吊り下げられた3本のロボットアームに両手首と首を接続される。肋骨先端の24個のセンサー基板がそれぞれ独立した LLM で並列処理し、装着者が嚙下したビル型センサーが深部体温を内側から送信。これら全データが、メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818) で fine-tune した言語モデル MaryGPT に統合され、運動指示としてロボットアームを介して装着者の身体を動かす。令和7年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業(創作支援プログラム) 採択。

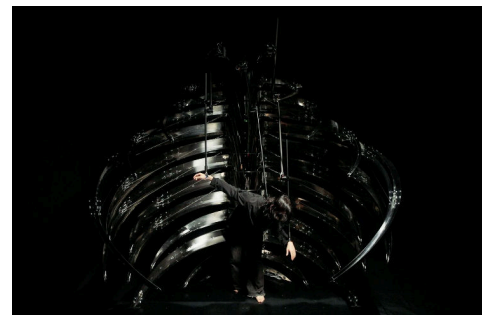
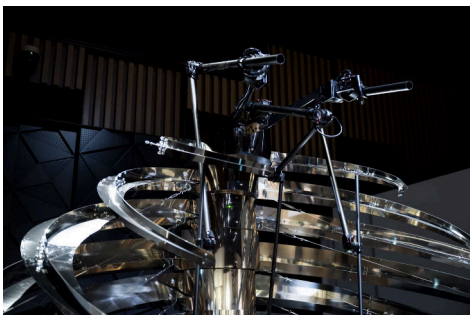
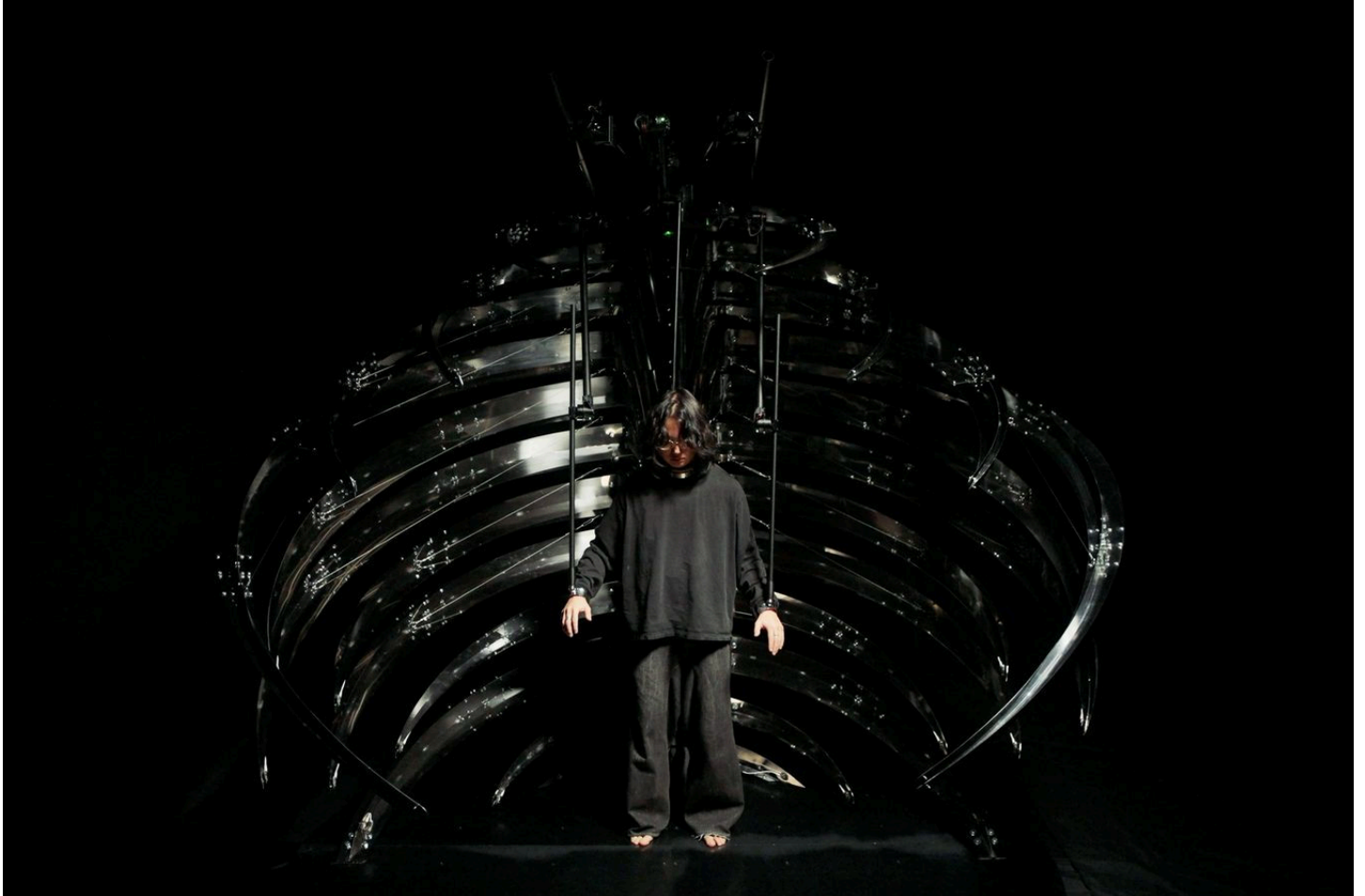


Photo by tada / Video still by Kenji Agata

**"Botanical Intelligence" project curation: MaryGPT**

周囲の森林・植物の生体データを取得し、人間の聞こえる音として生成する小型エッジデバイス。BIは単体で生成を行わず、ローカルで完結しながら周囲の他のBIとリゾーム上にネットワークを形成し、トークンを共有しながら音を生成する。令和7年度CCBTアーティスト・フェローシップ採択。

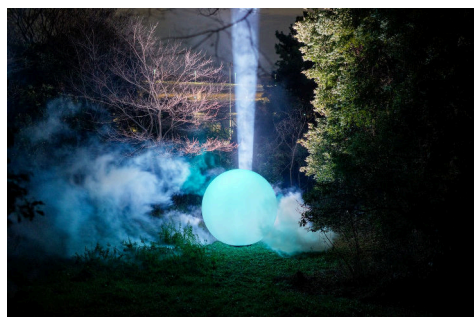
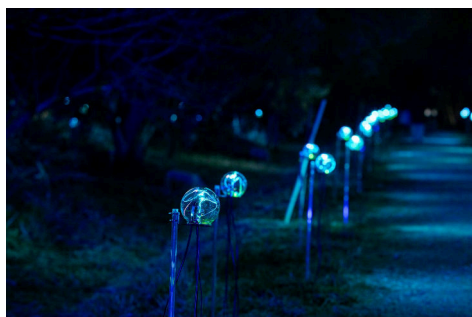
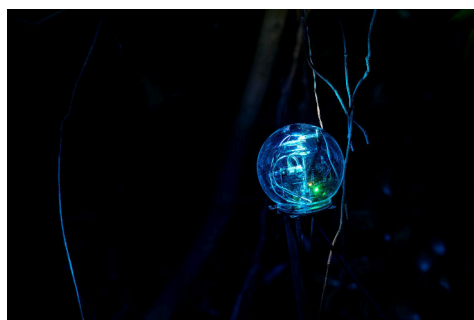
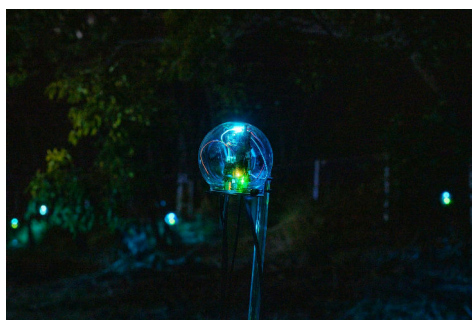


Photo by Naoki Takehisa

## Selected Exhibitions:

YUMA KISHI

### Solo Exhibition "Oracle Womb" (2025, JK Contemporary, JP) curation: MaryGPT

岸がメアリー・シェリーのテキストをもとに設計したオリジナルのテキスト生成モデル - MaryGPTによるキュレーション。「神託(Oracle)」をテーマに、リアルタイムで生成される胎児を生成するAIモデルやと神話を記述するAIモデルなど複数のプログラムを有機的に組み合わせたインスタレーションや、LEDスクリーン、巨大な椅子状の彫刻、エイリアンの胎内の光景を描いた絵画など数十点展示。いずれも岸が設計した独自のAIアルゴリズムが用いられている。日本のギャラリーJK Contemporaryにて、2025年2月から3月で実施。英語字幕付きのアーカイブビデオはこちら。

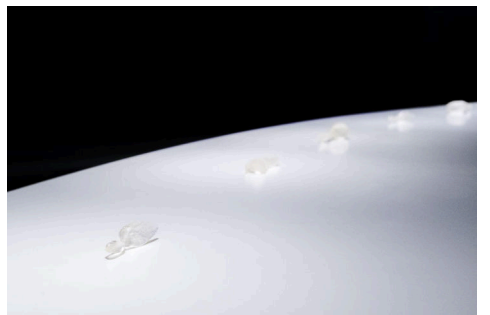
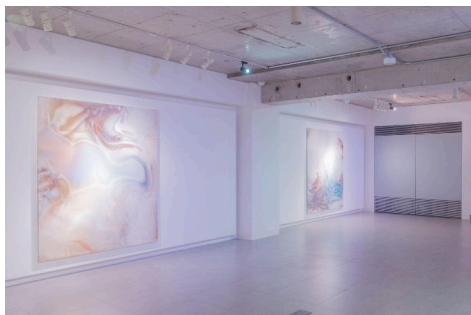
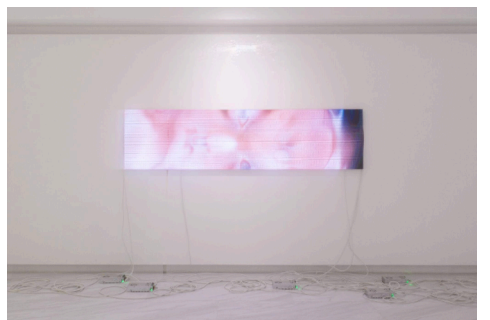
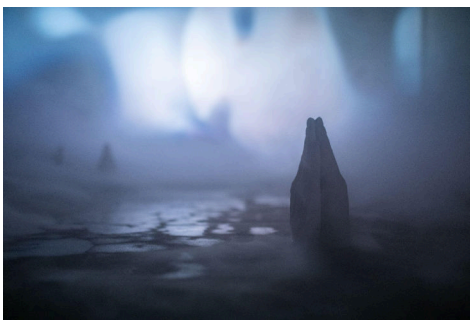


Photo by Yunosuke Nakayama

個展 “The Frankenstein Papers” (2023) キュレーション: MaryGPT

メアリー・シェリーの小説「フランケンシュタイン」をデータセットとして実装されたテキスト生成モデル - MaryGPTが初めてのキュレーションを担当した展示。MaryGPTによって生成された不可思議なステートメントや作品案をもとに、胎児のエコー画像で変換された「最後の晩餐」の模写や、宙吊りされた巨大な黒いギリシャ建築の柱など絵画・立体・映像作品を数十点展示。DIESEL ART GALLERYにて2023年3月から6月で実施。

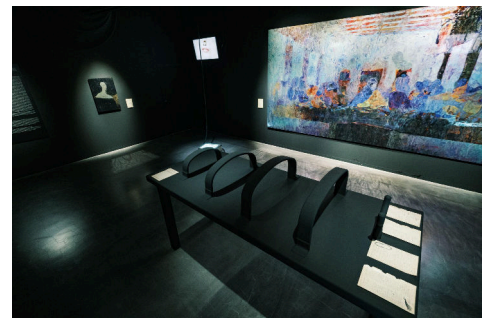
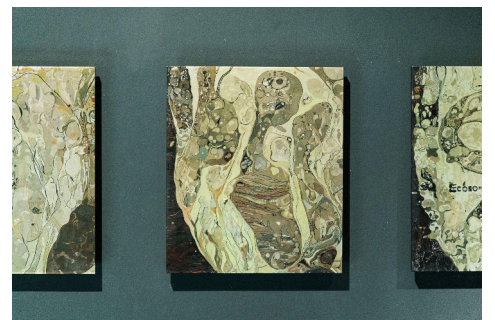
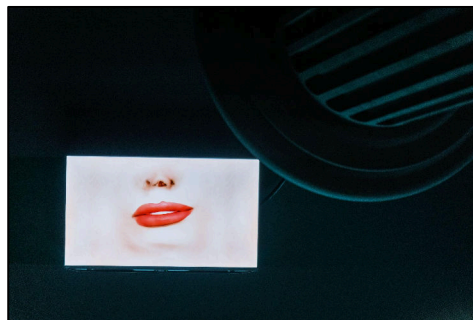
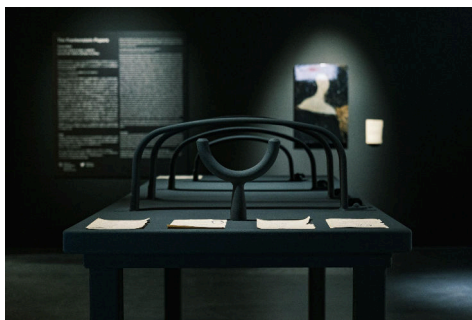
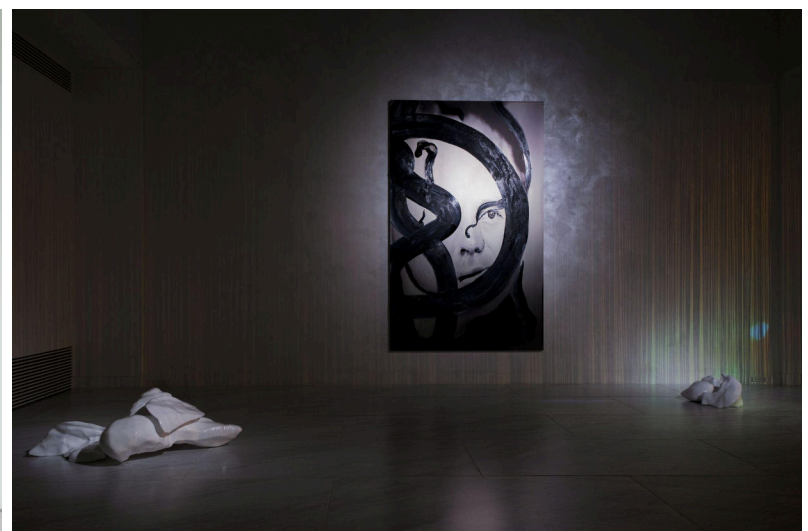
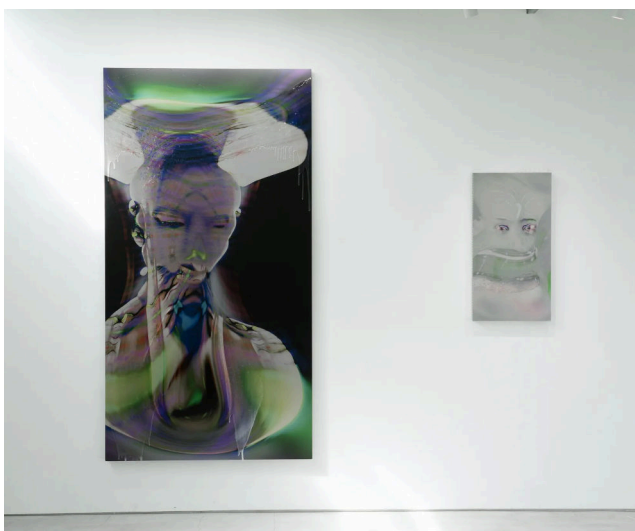
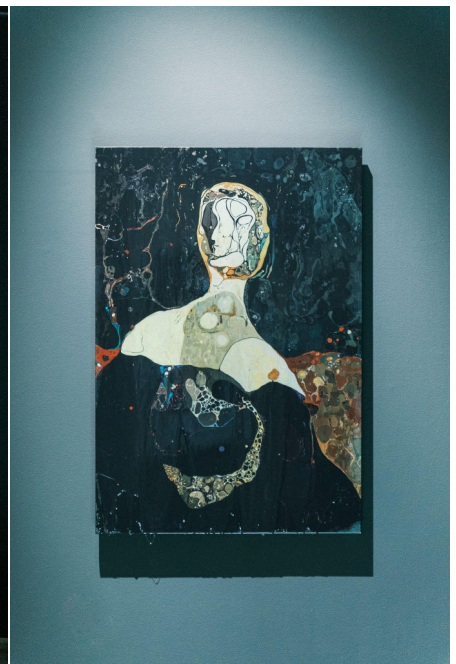


Photo by Yunosuke Nakayama

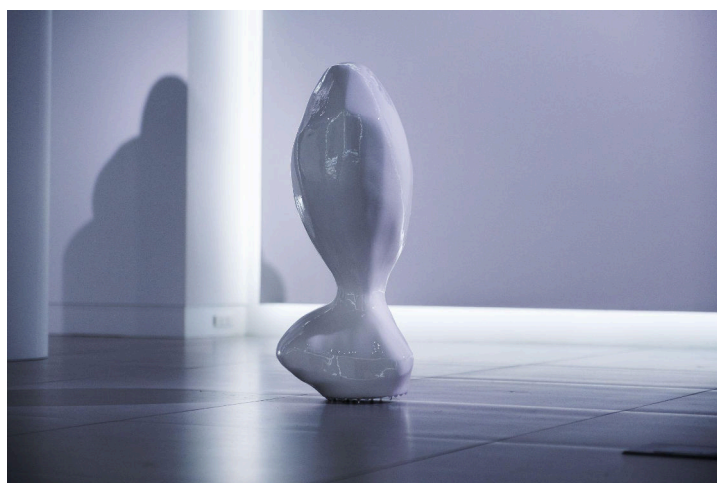
過去の絵画作品 (2019-2026)

岸は絵画作品の制作において常にイメージ生成モデルを開発し、データセットから自分の手で制作することでモチーフを再構築する。西洋美術史やアジアの美術史上で重要なアイコンをデータセットに使うことが多く、人間とは異なる視覚回路を経由して生成されるAIモデルたちの出力した図像はどこか有機的でありながら鑑賞者に違和感や不穏な表情を見せる。生成イメージは主にキャンバス布やアルミハニカムパネルなどに転写され、上から絵の具や樹脂がブラストロークとともに組み合わせられる。



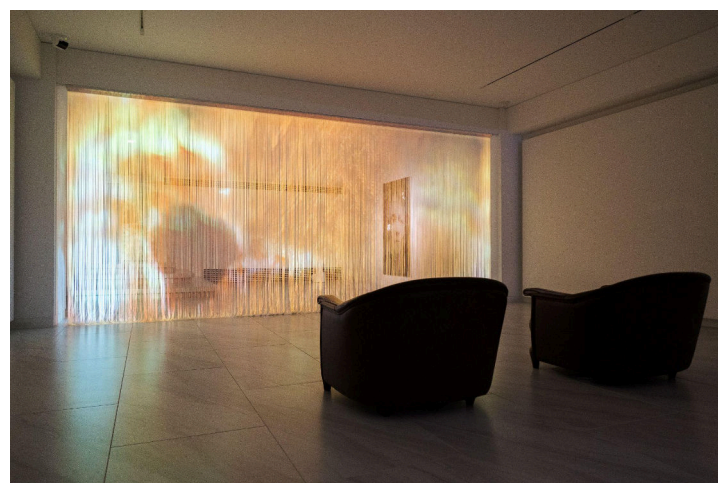
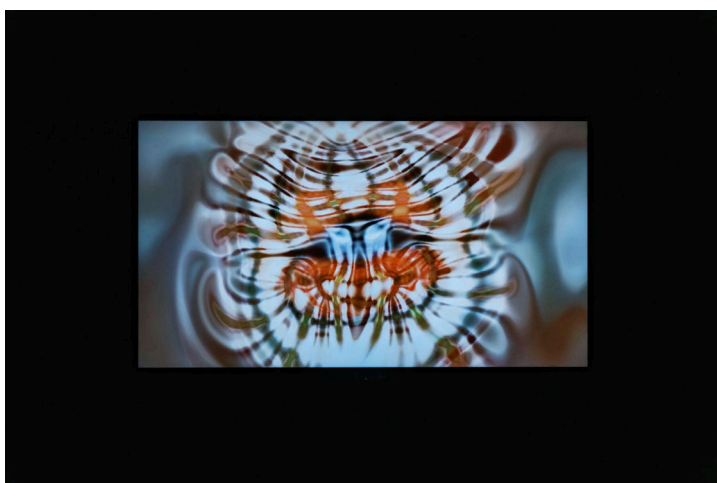
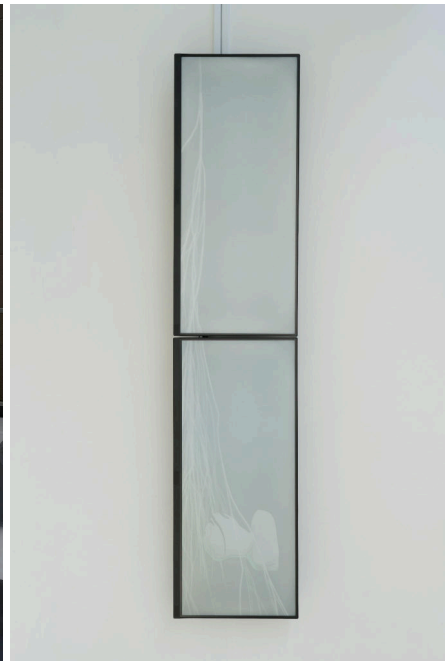
## 過去の彫刻作品 (2019-2026)

岸はこれまで「骨」や「胸像」「椅子」といった人類や美術史にとって普遍的なモチーフを選び、3D形状データの生成モデルを構築して、パブリックドメインの3Dスキャンデータを用いて彫刻の原型をコンピュータ上で演算する。生成された原型データはCNC切削加工や3Dプリンターにより物質化や削り出され、塩や石膏などの素材によって岸が自ら素材を転換することによって、最終的な彫刻作品へと仕立てられる。



過去のインスタレーション / 映像作品 (2019-2026)

自作のキュレーターAIモデルMaryGPTによるテキストを用いた空間インスタレーション(白い水面に大量の祈りの手を並べる)や、月の位置情報をもとに根を張る架空の植物のシミュレーション、唇の映像と日本語の音声那不自然に同期する映像や、自身の内視鏡データを用いたスクリーン投影のインスタレーションなど、AIたちの持つデジタルの質感を展示空間に投影することで、多様なインスタレーション・映像作品を展開している。



**過去のコラボレーション・コミッション (2019-)**

ファッションや音楽、コンテンポラリーダンス、演劇など多領域のアーティストとコラボレーションをしながらAIの創造性を探求。



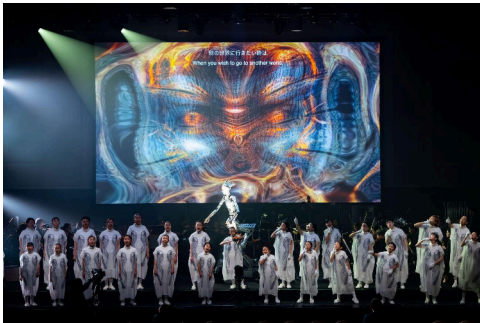
[Satoko ICHIHARA] "Slime Mold Traversed the Flesh" at SCARTS, Sapporo (2026)



[Daichi MIURA] "Polytope -Conceptual Film-" (2025)



[MASU] FW25 "20XX" — Steam Time Zone (2025)



[Keiishiro SHIBUYA] "ANDROID OPERA TOKYO 2024" at Yebisu Garden Cinema (2024)



[HATRA] "LOTUS ROOM" at 21st Century Museum of Contemporary Art Kanazawa (2024)



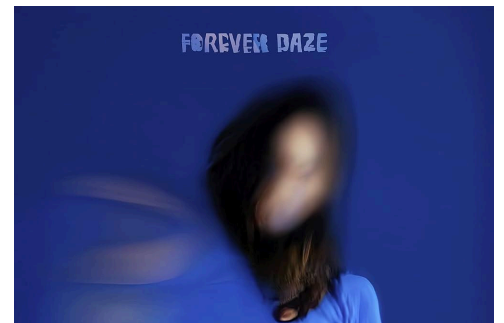
[Hatis Noit] "Angelus Novus" at MUTEK Montreal (2023)



[LAFORET] LAFORET GRAND BAZAR main gr (2023)



[Hitsujibungaku] LIVE tour "if i were an angel," (2023)



[RADWIMPS] "FOREVER DAZE" main gr (2021)



[Saori HALA] "Odd Apples" at TOKAS (2021)



[Shintaro Mieda Orquesta de la Esperanza] "Seeds" (2020)



[Tees] "THE KISS" (2020)

単著『未知との創造:人類とAIのエイリアン的出会いについて』(誠文堂新光社, 2025)



講演『Alien Intelligence と Botanical Intelligence』(人工知能学会 第40回全国大会 OS-23 招待講演, 2026)

登壇『Botanical / Artificial Intelligence 植物とAIから考える知性のかたち』長谷川祐子・徳井直生・豊田正嗣と共に(CCBT, 2026)

活動報告会『「これからのコモンズ」への応答』(CCBT 2025年度アーティスト・フェロー, 2026)

ポッドキャスト『Parallel Plants Prompts』ホスト(CCBT「平行植物園」関連企画, 2026年～)

寄稿『夕闇の子どもたち』(ユリイカ2026年1月号 特集=アリ・アスター, 青土社)

インタビュー『岸裕真インタビュー。キュレーターMarvGPTの神託と、人間らしさを捨てることで見えてくる「未来図」とは』(美術手帖, 2025)

インタビュー『“エイリアン的知性”である人工知能との共創が、くわたしたち)を解体する—現代美術家・岸裕真』(WIRED, 2025)

講義『特別講義: AIプログラミングと創作』(大阪芸術大学, 2025-)

寄稿『比翼連理のTransformer』(ユリイカ臨時増刊号 総特集=岡崎乾二郎, 青土社, 2025)

登壇『WIRED Futures Conference 2025: Future of Alien Intelligence』(WIRED, 2025)

登壇『異種間クロストーク #10「AIと仏教」』(国際文化会館, 2025)

出演『岡崎乾二郎展 記念番組』(DOMMUNE, 2025)

出演『CREATOR'S NOTE』(J-WAVE, 2025)

講義『メディア特論 アート+「アートとテクノロジー」ゲスト講師』(東京芸術大学, 2024)

講義『2024年度秋学期 KUMA LABレクチャーシリーズ ゲスト講師』(東京大学, 2024)

講演『AIがひらくアートの可能性/アートがひらくAIの可能性』(ARTnews Japan, 2024)

インタビュー『「もっとAIに危ぶまれない」。異色のアーティスト・岸裕真が人工知能に委ねたフランケンシュタイン的現在とは?』(Tokyo Art Beat, 2023)

インタビュー『「ボーはおそれている」と「フランケンシュタイン」—岸裕真がAIとの作品制作で探る「あちら側の世界」』(ARTnews JAPAN, 2023)

インタビュー『【後編】AIはコンセプトからアートを解放させる/ 連載「作家のB面」Vol.14 岸裕真』(ARToVILLA, 2023)

インタビュー『AIと人間の相互関係を思考する 対談: 現代美術家マシュー・ストーン×岸裕真』(TOKION, 2023)